



隈府小だより

学校教育目標「自ら考え なかまと高め合う 隈府小」

隈府小学校
学校だより No42
文責 芹川博文
3月13日(金)

「教育は種まき」

～ 論語で始まる隈府小の朝 ～

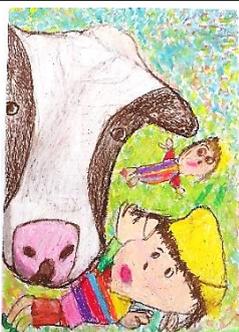
隈府小の朝は、論語で始まります。放送委員さんのリードで、各教室から大きな声が響きます。時に難しく、奥深い言葉。しかし、時代を超えたその価値観が、大人になって結びつく瞬間があることを期待します。教育は「種まき」に似ています。いつ芽が出るか楽しみです。今年度最後の論語は右の言葉です。これもなかなかの奥深さ。「好き」と「楽しむ」の違いを考え込みました。「正解」はなく自分で体感するしかないかもしれません。もしかしたら、冬季オリンピック・パラリンピックや、WBC(ワールド・ベースボール・クラシック)の選手の姿に、そのヒントがあるかも、とも思いました。

【意味】
あることに知識のある人であつても、そのことを好きな人には及ばない。好きな人であつても、それを楽しむ人には及ばない。

子曰く、
之を知る者は、
之を好む者に如かず。
之を好む者は、
之を楽しむ者に如かず。

「絵の力」

～ 圧倒される こどもたちの感性の豊かさ ～



「おおきすぎてびっくり」
1年 緒方 涼



「リコーダーをふいているぼく」
3年 高木 瑛臣



「メロディを奏でるぼく」
4年 生田 大翔



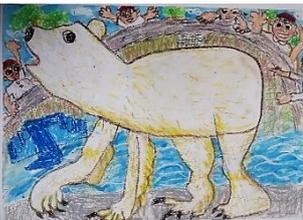
「ニジマスをつかんだよ」
5年 畑野 梨桜



「時の流れとともにある神社」
6年 木佐木 嘉恋



「こんにちは うしさん」
1年 日高 匠海



「シロクマさんが こっちを見たいよ」
2年 久連松 祐聖



「くじゃくさんの羽、大きいな」
2年 矢野 朱莉



JA「ごはん・お米とわたし」優秀賞
「おにぎり、どんぶり、ふとまき」
2年 久連松 祐聖

子どもたちが描いた絵画に圧倒されます。紙面の都合上、「くまもと子ども美術展」の県特選(8作品)と、JA「ごはん・お米とわたし」絵画コンクール(2作品)、熊本県「心のきずなを深める」ためのポスター(1作品)の作品を紹介します。どの作品からも伝わる「絵の力」。躍動感や静寂などが、構図や表情(特に目)、指の動きなどで表現され、鮮やかに丁寧な色使いで仕上げられています。タイトルも味わい深く、絵を引き立てます。



絵本「はらぺこあおむし」の著者、エリック・カールは、子どもの時をドイツで過ごしたそうです。第二次世界大戦が始まり、町から次々と色彩が奪われていったとのこと。喜びに満ち、色彩にあふれる彼の作品には、戦争のない平和な社会と、子どもたちの幸せを願う強い思いが込められているそうです。やわらかで豊かな感性が光る作品。そこから伝わる感動や思い。色彩を存分に楽しむ未来を、子どもたちに繋げたいものです。



県「心のきずなを深める」ためのポスター
優秀賞
2年 新美 友理



JA「ごはん・お米とわたし」
NHK 熊本放送局賞
「お母さんといなりすし
つくったよ」
2年 矢野 朱莉